

## 市内循環バス見直し運行計画（素案）

桶川市市民生活部安心安全課

## 目次

1. 運行見直し計画（素案）作成の基本的な考え方について・・・1ページ
  2. 市内循環バスの現状と見直し方針・・・・・・・・・・・・・・2ページ
  3. 市内循環バス見直し運行計画（素案）・・・・・・・・・・・・・・5ページ
- 別図 運行ルート案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7ページ
- 別紙 OD調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8ページ

## 1 見直し運行計画（案）作成の基本的な考え方について

桶川市内を運行している市内循環バス「べにばなGO」は、交通空白地帯の解消、高齢者等交通弱者の移動手段を確保することを目的として、平成13年4月から本格運行を開始しました。以降、公共施設を利用する方はもちろん、通勤、通学等市民の身近な足として利用されています。お陰様で、年間約27万人（平成28年度実績）の方にご利用をいただいておりますが、平成10年代後半をピークとして利用者の減少が続いています。

また、利用状況の変化や、市民の皆様から寄せられている「相互運行の実施」「運行本数の増便」「桶川駅への速達性向上」等の意見や要望、また、市からは、総合振興計画等上位計画による「歩いて暮らせるまちの実現」、「持続可能な行政負担額のあり方の検討」等の要請にどのように対応するか課題となっていました。

一方、近年、自治体が運行する「コミュニティバス」の役割とは、公共交通の骨格である路線バス等を補完し、交通不便地域の解消を図るため運行するものとされています。

そこで、市では市内の公共交通について、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するため、平成28年11月に「桶川市地域公共交通会議」を設置し、市内循環バスの見直しについて議論を進めました。

市内循環バスの見直しには、「公共交通の骨格となる民間路線バスのルート・運行サービスの維持」「市内循環バスは、民間路線バスを補完し、より市民が利用しやすい運行サービスを提供」を前提条件としたうえで、見直し方針を決定し、その方針に基づき、市内循環バスのあり方についての検討を重ね、このたび「市内循環バス見直し運行計画（素案）」を作成いたしました。

## 2 市内循環バスの現状と見直し方針

### 1. 現状

#### (1) 利用者の減少

市内循環バス「べにばなGO」は市内4路線「東循環（13便／日）」「西循環（13便／日）」「東西循環内回り（8便／日）」「東西循環外回り（6便／日）」で365日、毎日運行している。4路線全てにおいて、利用者は減少している。ここ数年でも、全体で毎年約2%ずつ減少傾向あり、ピーク時と比べると全体で約17%減少している。

また、燃料費の高騰、車両修繕費用の増加、人員不足等による人件費のアップ等の理由により運行経費が年々増加傾向にある。全体の一人当たりの運行経費は、302円（平成28年度実績）となっているが、特に東西循環外回りについては、市街地郊外を運行することから利用者数が少なく、1人当たりの運行経費は549円（平成28年度実績）と他路線比較して最も高い状況にある。

#### (2) バス停利用状況

各路線の停留所利用状況は資料参照（平成29年度OD調査結果）

#### (3) 利用目的

平成28年度実施の利用者聞き取り調査によると、「通勤、買物、趣味・娯楽」が上位となっており、平成29年実施のOD調査の結果、バス停間の利用は少なく、駅東西の移動需要も多くはない。市内循環バス利用者の約9割が駅発着の利用と最も多く、駅との速達性が求められている。

#### (4) 路線バス等との競合

市内循環バス運行当初には、市内の幹線道路が整備途中であったことから路線バスと重複するようなルートが設定されたところがある。その後、ルートに大きな変更はないが、現在、圏央道や上尾道路の整備、東西の区画整理事業の進捗等により、市内の道路等の基盤整備が進み、道路交通網も大きく変化している。持続可能な公共交通の仕組みを確立するため、路線バス等との競合を回避し、路線バス等を補完する交通機関としてルート等の見直しが求められている。

### 2. 課題への対応

#### (1) 利用者の減少

市民等利用者から特に要望の多い「運行本数増便・運行時間帯の拡大・相互運行」を踏まえ、現状の利用者の満足度を上げ、更に新たな利用が見込まれる運行とする。

#### (2) バス停利用状況

利用が少ない地域のバス停については、他の公共交通との状況を踏まえ運行本数等の見直しを検討するとともに、逆に、利用の増が見込める地域については、運行本数の増便等利便性の向上を図るなど各地域の状況にあった運行とする。

### (3) 利用目的

「通勤、買物、趣味・娯楽」といった目的で利用する市内循環バスの利便性を向上させるため、駅との速達性を高め、便利で利用しやすい運行とする。

### (4) 路線バス等との競合

路線バス等との競合を回避し、持続可能な公共交通の仕組みができる運行とする。

## 【市内循環バス見直しの方針】

1. 民間路線バスを維持する観点から、路線バスとの競合を極力回避する。
2. 桶川駅への速達性を向上するルート及び運行形態とする。
3. ルートの所要時間が拡大しない範囲で、市内の主要施設へのアクセスを確保する。
4. 見直しにあたっては、路線バスとの均衡を考慮しつつ、運行サービスに見合った料金設定を行う。  
要配慮者（高齢者等）の料金設定も必要に応じ検討する。

### 3 市内循環バス見直し運行計画（素案）

#### 【運行目的】

第5次総合振興計画に掲げる施策「歩いて暮らせるまちの実現」を達成するため、市内循環バスの当初の運行目的「交通空白地帯の解消」「高齢者等交通弱者の移動手段の確保」を維持するとともに、市街地においては相互運行が可能となり、駅への速達性の向上等、市内循環バスの利便性を向上させる。

#### 1. 市内循環バスの見直しルート

##### （1）ルートの考え方

①路線バスとの重複を避けたルートを設定する。

②駅東西を分けたルートに設定する。

駅東側は大小2循環とし、内回りと外回りを逆に運行することで、市街地の相互運行を実現させ、利便性を向上させる。

駅西側は、南北のルートに再編し、それぞれ郊外まで往復するコンパクトなルートにすることで、市街地の相互運行を実現させ、利便性を向上させる。

③駅との速達性が向上するようなルートに設定する。

##### （2）運行ルート、運行便数

###### ○駅東側

###### ①外回り

運行形態：小型バス1台

運行ルート：桶川駅東口 → 末広二丁目 → 総合福祉センター → 東小学校 →  
舎人スポーツパーク → 五丁台 → 東部工業団地 → 大加納 → 北二丁目  
→ 桶川駅東口

運行距離：12.2km

運行時間：約40分

運行便数：13便以上

###### ②内回り（基本ルート）

運行形態：小型バス1台

運行ルート：桶川駅東口 → 北二丁目 → 大加納 → べに花ふるさと館 → おけがわ団地  
→ 坂田堀ノ内 → 総合福祉センター → 末広二丁目 → 桶川駅東口

運行距離：9.7km

運行時間：約35分

運行便数：13便以上

※神明経由、小針領家経由便有（各5便程度）

## ○駅西側

### ③北ルート（基本ルート）

運行形態：小型バス1台

運行ルート：桶川駅西口 → 桶川中学校 → 桶川郵便局 → 鴨川一丁目 →  
ベニバナウォーク → 下日出谷多目的グラウンド → 上日出谷南部 →  
日出谷小学校 → 殿山団地 → 上日出谷北 → 諏訪神社 →  
川田谷小学校 → 生涯学習センター → 川田谷原 → はにわの里 →  
市場集会所 → 上日出谷北 → 殿山団地 → 日出谷小学校 →  
上日出谷南部 → ベニバナウォーク → 旧一三屋食堂 → 鴨川公園 →  
市民ホール → 桶川駅西口

運行距離：17.9km

運行時間：約50分

運行便数：6便以上

※朝日経由、上日出谷戻り便有（各5便程度）

### ④南ルート（基本ルート）

運行形態：中型バス1台

運行ルート：桶川駅西口 → 市民ホール → 下日出谷第2公園 → サン・アリーナ →  
下日出谷 → 滝ノ宮 → 桶川西高校前 → 薬師堂北 → いずみの学園 →  
城山公園 → 川田谷原 → 川田谷小学校 → 川田谷岡村 → 下日出谷 →  
サン・アリーナ → 下日出谷第2公園 → 市民ホール → 桶川駅西口

運行距離：15.1km

運行時間：約40分

運行便数：13便以上

※桶川西高校戻り便有

## (3) 運行日及び運行時間帯

### ①運行日

平日、休日（土日祝日）ともに運行

※平日と休日の運行方法については、利用状況から、今後便数の変更等を検討。

### ②運行時間帯

概ね7時台から21時台での運行

## 2. 運賃

(1) 路線バスの運賃を考慮し、基本料金200円均一(※)とする

※参考 市内の民間路線バスでは、市内で利用する場合「100円～320円」で運賃設定されています。

(2) 乳幼児、障害者(児)の無料措置に加え、小児運賃の割引について導入を検討

## 3. 車両

(1) 現行と同様の小型バス、中型バスを利用

## 4. その他

(1) バス停留所

300メートル間隔を基本とする。

※既存バス停を再利用

(2) 試験運行

①試験運行として平成31年4月から1年間実施(延長有)する。

②試験運行に対してのアンケート調査を実施し、利用状況等と合わせて検証し、評価を行う。

③試験運行での評価を踏まえ、運行の変更・廃止等を検討する。

(3) 運行実施までに検討する事項

①運行サービスが低下する地域に対する代替案(バス以外)

②高齢者等の割引制度(※免許自主返納者の取り組みも含む)

③利用促進策

④広告等運賃以外の収入確保策